市政トピックス

防災が身近な世界へ―仙台防災未来フォーラム／世界防災フォーラム

仙台国際センター等を会場に、3月4日に「仙台防災未来フォーラム2023」、3月10日から12日に「世界防災フォーラム2023／防災ダボス会議@仙台2023」が開催されました。

「ここから広げる　防災が身近な世界と未来」をテーマとした仙台防災未来フォーラムには、市民団体や企業等延べ122団体が出展し、日頃の活動を発信。ワークショップ「あれから12年スペシャルPart（パート）2」では、発災当時の消防隊員の救助活動や感じた思いを映像や朗読で伝え、参加者は真剣に耳を傾けていました。また、防災を学ぶステージショーや発表等も行われ、震災の教訓を未来へつなぐ思いを新たにする機会となりました。

◀仙台防災未来フォーラム2023で行われた段ボールを使った工作ワークショップ

世界防災フォーラムでは、本市が東北大学災害科学国際研究所と共同で取り組んできた「仙台防災枠組2015―2030」の中間評価の結果を発表。災害による死亡者数の減少等の7つの目標と、災害リスクの理解・共有等の4つの優先行動について、目標を達成中であることや、引き続き、防災環境都市づくり推進に向けて取り組むことを郡市長より報告しました。さらに、海外からの参加者をはじめとする防災関係者でセッション等を行い、防災・減災の新たな価値の創造に向け、議論を深めました。

▲世界防災フォーラム2023のセッションの様子

市政トピックス

東日本大震災仙台市追悼式を開催

東日本大震災の発生から12年となる3月11日に、宮城野体育館で東日本大震災仙台市追悼式を行いました。2年ぶりに式典形式で開催し、ご遺族など約250人が参列。地震発生時刻の午後2時46分に全員で黙とうをささげました。

郡市長は「市民の皆さまと手を携えながら、変わらぬ信念のもと安全・安心で希望に満ちた都市づくりに努めていくことを誓います」と式辞を述べました。

勾当台公園市民広場や区役所等に設置された献花場には約6700人の方が追悼に訪れ、犠牲となられた方々のご冥福を祈りました。

市政トピックス

令和5年度の主な組織改正（4月1日付）

子ども・若者施策の推進のために（こども若者局）

●こども若者局の設置

子ども・若者を取り巻く環境や課題が複雑化している中で、総合的に子ども・若者施策を推進するため、子供未来局の分掌事務に若者に関する事項を加え、名称を「こども若者局」としました。

●いじめ対策推進室と子供育成部の再編および若者支援課の新設

困難を有する若者を中心とした支援の強化や全庁的な若者施策の連携強化を図るため、いじめ対策推進室および子供育成部を再編し、「こども家庭部」および「こども若者支援部」とするとともに、こども若者支援部に「若者支援課」を新設しました。

イノベーション創出の充実・強化のために（経済局）

●産業政策部の分割およびイノベーション推進部の新設

スタートアップ支援や次世代放射光施設を中核としたリサーチコンプレックスの形成を通じ、イノベーション創出のさらなる充実・強化を図るため、産業政策部を分割し、「産業政策部」および「イノベーション推進部」としました。

●産業振興課の分割およびスタートアップ支援課の新設

スタートアップ・エコシステム拠点都市として、スタートアップ支援施策のさらなる充実・強化を図るため、産業振興課を分割し、「スタートアップ支援課」および「産業振興課」としました。

青葉山エリア複合施設の整備のために（文化観光局）

●青葉山エリア複合施設整備室の新設

音楽ホール等複合施設整備の推進体制を強化するため、文化観光局文化スポーツ部に「青葉山エリア複合施設整備室」（課相当）を新設しました。

泉中央地区活性化のために（泉区）

●泉中央地区活性化推進室の新設

泉区役所庁舎建て替え事業および泉中央地区の活性化をより効果的に推進するため、泉区に「泉中央地区活性化推進室」（課相当）を新設しました。

●各組織の業務内容は4月1日から市ホームページでもご覧いただけます

市政トピックス

白熱の試合展開―市長杯ボッチャ大会

障害の有無に関わらずボッチャを通して交流を深めることで、障害への理解を促進することを目的に「仙台市長杯仙台市ボッチャ大会」が初めて開催されました。

パラリンピック種目であり、ボールを投げたり、転がしたりして目標球にいかに近づけるかを競うボッチャ。手でボールを投げることが難しい場合には、競技アシスタントのサポートを受けながら、投球補助具であるランプを使用して投げることもでき、誰にでも楽しめるスポーツとして人気が高まっています。

3月5日に宮城野体育館で開催された決勝大会には、各区予選会を勝ち抜いた上位3チームと主催者推薦チームの計16チームが出場。試合では、相手の投球コースをふさぐなど、各チームが戦略を講じながら、手に汗握るプレーが繰り広げられました。また、ファインプレーが飛び出すと、味方だけでなく、相手チームや観客からも惜しみない拍手が送られ、会場は熱気に包まれていました。

▲投げる強さを調整しながら、目標球の近くを目指して投球します

市政トピックス

東北の魅力を発信！あなたの推し地域選手権

2月25日・26日に、「東北の地域おこし協力隊祭2023inララガーデン長町　あなたの推し地域選手権」が開催されました。

長町地区で活動する仙台市南部拠点地域おこし協力隊の呼び掛けで、東北10カ所の地域から地域おこし協力隊が集結。野菜や工芸品といった特産物の販売や、観光・移住等の情報を紹介し、各地域の魅力を競い合いました。また、ステージでは地域おこし協力隊員によるプレゼンバトルのほか、「仙台市観光コンテンツ創出地域おこし協力隊」によるアクロバットパフォーマンスなどが披露され、盛り上がりを見せました。

東北各地の自然や食、文化などの魅力に触れ、各地の協力隊と交流する多くの来場者でにぎわいました。

3・11震災文庫を読む 62

東日本大震災を語り継ぐため市民図書館に設けた「3・11震災文庫」。所蔵する約1万冊から、よりすぐりの本をご紹介します。

普段の心遣いを皆さんと共に！

東北工業大学准教授　伊藤　美由紀

「震災と向き合う子どもたち―心のケアと地域づくりの記録」

徳水博志／著
新日本出版社　刊

東日本大震災当時に小学生であった大学生と震災を振り返るとき、大人や周囲に語れなかったという思いを知ることがあります。危機的状況や喪失体験をした子どもたちと向き合えていたか、心のケアができていたかと考えます。

津波で壊滅的な被害を受けた石巻市雄勝町について、現地で学生らと共に、著者である徳水博志氏や雄勝ローズファクトリーガーデン代表理事で奥様の利枝氏から、「復興の歩み」「被災時の心のケア」「現状と課題」などをご教授いただきました。

この本からは、「震災と向き合う大切さ」や、「復興教育は、地域や社会、そして他者に視野が広がる人間教育である」と学ぶことができます。

「つながる力―東日本大震災としょうがいのある人の暮らし社会福祉法人つどいの家の記録」

社会福祉法人つどいの家／著
フェミックス　刊

仙台市から「避難所における障害のある方への配慮の手引き」が令和2年8月に発行され、障害のある方への支援、訓練等での活用が呼び掛けられています。いざというときに支援をしたい、役に立ちたいと思っても、障害のある方と接する機会、障害への理解を深める機会は、一般的には少ないものです。

「八木山つどいの家」の利用者の方と本学の授業や地域活動でご一緒すると、普段から接すること、理解することの必要性を強く感じます。

この本からは、東日本大震災当時、障害のある方の避難行動や避難生活がいかに大変であったかを知ると同時に、地域でさまざまな支援があったことを知ることができます。

●紹介した本は、市民図書館でご覧いただけます　問市民図書館☎261・1585